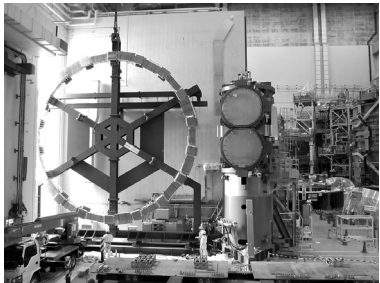


### 森林・木材への影響議論 学術会議 放射能汚染考えるシンポジウム



福島原子力事故に伴う放射能汚染と森林・木材への影響について考える日本学術会議主催のシンポジウムが二十四日、同会議本部講堂で開催され、汚染実態、生態系における放射能移動・蓄積などに関する大学・研究機関の調査報告を受け、林業・木材関連産業再生のあり方について議論が行われた(上写真)。

### 世界最大級の超伝導コイル搬入 原子力機構那珂研 「JT-60SA」本体室へ



日本原子力研究開発機構那珂核融合研究所(茨城県・那珂市)の「JT-60SA」に用いる世界最大級の超伝導コイルが、建設を行う本体室に搬入された(上写真)。

「JT-60SA」計画では、ITER計画から原型炉開発に向けて必要となる高圧力プラズマの長時間(百秒程度)維持を、二十三日には直径十・五mの世界最大級のEF6の搬入が報道陣に公開された。同研究所で製作された大型コイルEF6は、専用開口に設置して搬入された。

### 環境回復研究 各機関と連携を 原子力委

原子力委員会は二十八日、日本原子力研究開発機構より、環境汚染への対応に係る研究開発について説明を受けた。

同機構は、住民が安全で安心な生活を取り戻すための解決策や判断の根拠となる科学的技術的根拠・知見を体系立てて提供することにも、環境回復に効果的な技術や評価手法を開発して提供し、福島県環境回復を支援しており、「福島県環境創造

### 文科審議官に 土屋定之氏 文科省

文部科学省は十七日付で、文部科学審議官に土屋定之(科学技術・学術政策局長、科学技術・学術政策局長に川上伸昭・

担い手を失う組合員も多し、森林総合研究所の高橋正通氏が、福島県内三地域で実施している放射性セシウムの濃度変化の調査について説明した。それによると、二二年の調査で、樹種による違いもあるが、葉や枝の放射性セシウムは前年より減少したのに対し、土壌への分布が増加、一方、木材中の放射性セシウムに

ついては、スギで、辺材から心材へと移動したことが示されたなどとして、森林作業や木材の安全性確認のため、今後長期モニタリングの必要があることを述べた。山形大学農学部の早尻正宏氏は、福島県内の林業への影響について、被災地域に組織される「森林組合」の実態について述べた。早尻氏は、長期避難や経営の悪化により、

収集し分析する必要があるなどとした。林野庁・自治体の進める森林再生事業の一方で、原子力損害賠償の進展「森林組合」の現状を指摘した早尻氏は、全体討論の中で、「汚染された森林を再生する価値」を考え直す必要を訴えた。また、東京大学農学学生命科学研究科の石田健氏は、福島ウクライスに関する調査事例を紹介し、引き続き多くのデータを

文科省研究開発局開発企画課長、大臣官房総務課長、官房審議官、政策評価審議官、総括審議官、官房長など歴任。六十歳。事故情報アーカイブス、本格化

修復や事故炉の廃止措置に関する研究開発成果を、ウェブサイトより発信している。その上で、このほど、政府関係機関によるインターネット情報なども新たに追加し、体系的に整理、保存、発信する作業を本格化させることとした。

六ヶ所再処理施設については、地盤・地震関係、火山関係、施設関係に大別し、計二十二項目の論点が示された。その中で、同社が、敷地周辺断層として、六ヶ所から十kmに延長評価した出戸西方断層や、沖合の大陸棚外縁断層について、さらに詳細な地質調査結果を求めるなどしている。

ルギー問題について考えさせるドキュメンタリー映画「十一年後の安全」(〇九年、デンマーク、フィンランド、スウェーデン、イタリア)の本編吹き替え版全編を、YouTubeで無料配信している。本作品は、原子力事故発生後間もない一年四月より、同劇場始め、国内各地で上映された。話題となった「アップリンク」では、二月九日に投票が行われる東京都知事選挙で、原子力問題も争点となっていることを受けて、投票翌日の同月十日正午まで、無料配信を行うこととした。

この三月、ビキニ水爆実験による第五福竜丸被ばくから六十周年を迎える。銀行。

### 環境回復研究 各機関と連携を 原子力委

原子力委員会は二十八日、日本原子力研究開発機構より、環境汚染への対応に係る研究開発について説明を受けた。

同機構は、住民が安全で安心な生活を取り戻すための解決策や判断の根拠となる科学的技術的根拠・知見を体系立てて提供することにも、環境回復に効果的な技術や評価手法を開発して提供し、福島県環境回復を支援しており、「福島県環境創造

文科省研究開発局開発企画課長、大臣官房総務課長、官房審議官、政策評価審議官、総括審議官、官房長など歴任。六十歳。事故情報アーカイブス、本格化

修復や事故炉の廃止措置に関する研究開発成果を、ウェブサイトより発信している。その上で、このほど、政府関係機関によるインターネット情報なども新たに追加し、体系的に整理、保存、発信する作業を本格化させることとした。

六ヶ所再処理施設については、地盤・地震関係、火山関係、施設関係に大別し、計二十二項目の論点が示された。その中で、同社が、敷地周辺断層として、六ヶ所から十kmに延長評価した出戸西方断層や、沖合の大陸棚外縁断層について、さらに詳細な地質調査結果を求めるなどしている。

ルギー問題について考えさせるドキュメンタリー映画「十一年後の安全」(〇九年、デンマーク、フィンランド、スウェーデン、イタリア)の本編吹き替え版全編を、YouTubeで無料配信している。本作品は、原子力事故発生後間もない一年四月より、同劇場始め、国内各地で上映された。話題となった「アップリンク」では、二月九日に投票が行われる東京都知事選挙で、原子力問題も争点となっていることを受けて、投票翌日の同月十日正午まで、無料配信を行うこととした。

この三月、ビキニ水爆実験による第五福竜丸被ばくから六十周年を迎える。銀行。

この三月、ビキニ水爆実験による第五福竜丸被ばくから六十周年を迎える。銀行。

この三月、ビキニ水爆実験による第五福竜丸被ばくから六十周年を迎える。銀行。

### 大間フルMOX 審査「慎重に」 規制委員長

原子力規制委員会の田中俊一委員長は二十二日、建設中の電源開発大間発電所に係る新規規制基準に基づく審査に関し、フルMOX炉心については「相当慎重にならざる

をえない」との認識を示した。「函館市が先般、大間原発の建設差し止めを求める訴訟を三月にも起こす」との報道に関連し、記者が質問したのに対し、記者が質問したのに対し、記者が質問したの

多くの人は「放射線はがんのもとになる悪玉」と思っているが、生命維持に必要な酸素も遺伝子(DNA)を傷つけるという事実があります。日常生活で生じるDNA損傷の本

放射線が、遺伝子(DNA)を傷つける仕組みは線はがんのもとになる悪玉」と思っているが、生命維持に必要な酸素も遺伝子(DNA)を傷つけるという事実があります。日常生活で生じるDNA損傷の本

放射線が、遺伝子(DNA)を傷つける仕組みは線はがんのもとになる悪玉」と思っているが、生命維持に必要な酸素も遺伝子(DNA)を傷つけるという事実があります。日常生活で生じるDNA損傷の本

放射線が、遺伝子(DNA)を傷つける仕組みは線はがんのもとになる悪玉」と思っているが、生命維持に必要な酸素も遺伝子(DNA)を傷つけるという事実があります。日常生活で生じるDNA損傷の本

放射線が、遺伝子(DNA)を傷つける仕組みは線はがんのもとになる悪玉」と思っているが、生命維持に必要な酸素も遺伝子(DNA)を傷つけるという事実があります。日常生活で生じるDNA損傷の本

放射線が、遺伝子(DNA)を傷つける仕組みは線はがんのもとになる悪玉」と思っているが、生命維持に必要な酸素も遺伝子(DNA)を傷つけるという事実があります。日常生活で生じるDNA損傷の本

放射線が、遺伝子(DNA)を傷つける仕組みは線はがんのもとになる悪玉」と思っているが、生命維持に必要な酸素も遺伝子(DNA)を傷つけるという事実があります。日常生活で生じるDNA損傷の本

## 原子力 ワンポイント



### 広く利用されている放射線 22

放射線が、遺伝子(DNA)を傷つける仕組みは線はがんのもとになる悪玉」と思っているが、生命維持に必要な酸素も遺伝子(DNA)を傷つけるという事実があります。日常生活で生じるDNA損傷の本

放射線が、遺伝子(DNA)を傷つける仕組みは線はがんのもとになる悪玉」と思っているが、生命維持に必要な酸素も遺伝子(DNA)を傷つけるという事実があります。日常生活で生じるDNA損傷の本

放射線が、遺伝子(DNA)を傷つける仕組みは線はがんのもとになる悪玉」と思っているが、生命維持に必要な酸素も遺伝子(DNA)を傷つけるという事実があります。日常生活で生じるDNA損傷の本

放射線が、遺伝子(DNA)を傷つける仕組みは線はがんのもとになる悪玉」と思っているが、生命維持に必要な酸素も遺伝子(DNA)を傷つけるという事実があります。日常生活で生じるDNA損傷の本

放射線が、遺伝子(DNA)を傷つける仕組みは線はがんのもとになる悪玉」と思っているが、生命維持に必要な酸素も遺伝子(DNA)を傷つけるという事実があります。日常生活で生じるDNA損傷の本

表1. 酸素と自然放射線のどちらがDNA損傷の主役か

損傷の種類	DNA損傷(総数) (個/細胞/日)	DNA損傷(二本鎖切断) (個/細胞/日)
作用源		
酸素(細胞呼吸)	1,000,000	0.1
自然放射線 (1mSv/年 ≒2.5μSv/日)	0.005	0.0001

龍野之男著「放射線と健康」より作成

「修復不能」という常識ができてきた。つまり、日常生活で、修復不能なDNAの傷をつくらせる主役は、放射線ではなく、「人が呼吸して体内に取り入れる酸素」だったのです。